

## 天声人語

スクリーンに次々と、幼い少年たちの顔写真が映る。公開中の映画「いしぶみ」は、旧制広島第二中学校1年生の記録である。生徒300人余と先生4人が解体された建物のかたづけを始めた。数日のうちに全員が亡くなつた▼子どもたちの最期をつづる遺族の手記を広島テレビがかつてまとめた。それを俳優の綾瀬はるかさんが朗読する。熱線と爆風に見舞われ、川へ逃げた生徒たちは手をつないで軍歌「海ゆかば」を歌う。泳げない子は、「ぼくらは先に行くよ」と流されていった▼残された言葉の数々がある。朝日俊明くんは大勢の友の死を知り、米国を「やつつけてやる」と叫んだ末に息絶えた。松井昇くんは見舞いに来た友だちに、「オーライ、あすは水浴びにいこうや」と語りかけた▼高田文洋くんは、ようやく会えた母親に「このあいだもらった一学期の成績はよかつたでしょう」との言葉を残した。山下明治くんは原爆投下から3日後に亡くなつた。「いっしょに行くからね」と思わず言つた母親に「あとからでいいよ」「お母ちゃんに会えたからいいよ」と答えた▼極限の痛みに耐えながら、子どもたちは最期末で軍歌をうたい、敵国を憎み、親に気遣いをみせた。模範的な生徒であり、よき息子であろうとする姿が、あまりに切ない▼そこに人が原爆を落とさなければ、彼らはどんな大人になつただろうか。私たちは何度も悲しみ、怒らなければならない。71回目の原爆忌である。

2016・8・6